

令和8年度 長崎市立外海黒崎小学校 学校経営方針

(1) 基本方針

- 関係法令や学習指導要領、県・市の教育方針、及び「第4次長崎市教育振興基本計画」を基盤とし、地域・保護者の願いを反映した特色ある教育を推進する。教職員、保護者、地域、関係機関が「チーム外海黒崎」として協働し、子供一人一人が夢や目標に向かって、主体的に、生き生きと挑戦し続ける学校づくりに邁進する。

(2) 学校教育目標

夢（目標）に向かって、
「じぶんから みんなと いっしょうけんめい（校訓）」
に取り組む児童を育成する。

～きらめけ！自分の色・みんなの光～

(3) 目指す学校像

- 安心できる学校（心理的安全性が保たれ、一人一人が大切にされる学校）
- 活力のある学校（未知のことにワクワクし、共に学び続ける学校）
- 地域とともにある学校（対話を通して信頼を深め、共に子供を育てる学校）

(4) 目指す子供像

- 「じぶんから」学ぶ子
 - ・ 自ら問いを見つけ、対話を通して学びを創り出す子
 - ・ 自分の良さを認め、ありのままの自分を愛せる子
- 「みんなと」高め合う子
 - ・ 違いを尊重し、豊かな人権感覚を持って共に歩む子
 - ・ 仲間の挑戦を認め、支え合い、心地よい居場所を創る子

○ 「いっしょうけんめい」挑戦する子

- ・ 失敗を恐れず、今の自分から「一歩」踏み出す勇気を持つ子
- ・ コンフォートゾーン（快適空間）を飛び出し、未知の体験を楽しむ子

(5) 目指す教職員像

○ 主体的に学び続け、高みを追求する教職員

- ・ 背中で語る学習者：自らも学びを楽しむ姿を子供に見せることで、知的好奇心を連鎖させる。
- ・ 伴走型の指導：子供の可能性を信じ抜き、思考を深めるための「任せる・待つ・支える」アプローチを徹底する。

○ 多様性を認め、心に寄り添う教職員

- ・ 受容と共感の姿勢：高い人権意識とカウンセリングマインドを持ち、子供や保護者の思いを丁寧に汲み取る。
- ・ 自己肯定感の育成：価値付け（褒める）を大切にし、子供が「ありのままの自分」を愛し、自信を持てる関わりを行う。
- ・ 自治の種まき：子供に役割と責任を委ねることで、自分たちの力で集団を育てる「自治の風土」を醸成する。

○ 強みを生かし、協働して未来を創る教職員

- ・ チームの相乗効果：個々の強みやアイデアを掛け合わせ、組織としてより質の高い教育活動を展開する。
- ・ 対話を通じた成長：子供の成長を語り合う文化を大切にし、互いの専門性を高め合う。
- ・ 迅速な連携：課題発生時には「チーム学校」として即座に手を取り合い、組織力で解決にあたる。

業績評価の自己目標は目指す教師像の3項目をもとに設定する。

(6) 経営の重点

<u>1 共有ビジョンと学校の協働文化</u> <u>教</u> 教職員の協働により、みんながき めくためのわくわくするようなビジョ ン達成のための手段をつくり出す。 <u>管</u> 教職員一人一人を理解し、信じる ことに努める。	<u>2 家庭教育との協働</u> <u>教</u> 保護者の思いに寄り添い、受容し、 共感する。どんな保護者に対しても力 ウンセンシングマインドを忘れずに接す る。 <u>保</u> 学校と連携し、子供の成長を見守 る。	<u>3 社会教育との協働</u> <u>管</u> ソーシャル・キャピタルを引き込み、 学校を地域のプラットフォームとして 機能させる。 <u>社</u> 地域が学校とともに教育に責任を 負う。
<u>4 つながりを生み出す生徒指導</u> <u>教</u> 寄り添う生徒指導に心掛け、問題 の背景にある子供の合理性を理解す る。問題発生時には、組織で早期対応 に努める。 <u>教</u> 学校で共有したルールやマナーを 凡事徹底する。		<u>5 共生社会をつくる特別支援教育</u> <u>教</u> 一人一人と向き合い相手を理解し 尊重する力、支え合う集団をつくる力 を付けることで、特別支援教育の充実 を図る。 <u>管</u> 校内委員会の機能性を高め、外部 機関との連携に努める。
<u>6 子供の学びを支える校内研修</u> <u>教</u> 子供の思考をつなぐ「任せる・待 つ・支える」授業をつくる。 <u>教</u> 教職員自身が主体的な学びを実践 し、確かな学力の向上に努める。 <u>教</u> 伝える力(研究)と伝える力(修 養)の獲得に努める。	<u>7 学校の働き方改革</u> <u>管</u> 教職員の働きがいを生み出すため のソフト面(教職員の意識)の改革と 前例や慣習にとらわれないハード面 の働き方改革に早急に取り組む。 <u>教</u> 自分の働きがいを見つめ直し、主 体的な働き方に努める。	<u>8 スクールリーダーの役割</u> <u>管</u> 自己実現の欲求に応える学校づく りを目指し、承認の欲求と社会的欲求 に応える。 <u>管</u> 8つの連環を、強固なものにし、誰 一人取り残さない学校をつくる。

(7) 第5次教育振興基本計画をふまえた本年度の重点努力事項及び具体的方策

①G1-1 「確かな学力」の向上

学力向上の推進・・・目標に向かって粘り強く取り組み、互いに高め合う子供の育成

- ◎身に付けるべき資質能力の育成 ◎学びの意義(何を学ぶか)を実感する学習活動の設定
- 校内研究の充実(教師が学びの当事者となるようなわくわくする取組)
- 一人一台端末の効果的な活用(使うことが目的となってはならない。)
- UDの授業づくり(全ての子供を学びのステージに上げる。一人も取り残さない。)
- 家庭学習の充実(主体的な学びの構築に向けたそとめっ子スタイルの構築) 自主・自分・自由
- 9年間を見通した外国語教育の推進 ○読書活動の推進(年間一人当たり 350 冊目標)

②G1-2 健やかな心と体の育成

挨拶、ルール・マナーの定着・・・自分事として捉えさせ、一人一人の心に響く指導の徹底

- 「本物」の挨拶と返事、無言清掃、はき物並べ ○早寝早起き朝ごはんの習慣化
- 「いじめ」を絶対に許さない人権意識の向上 ○平和教育・人権教育の充実
- 子供に寄り添い、積極的に徹底した生徒指導 ～子供のサインを見逃さない感覚とアンテナ～
 - ・事案への迅速かつ適切な対応
 - ・不登校、その他課題のある児童・家庭への背景の見取りと組織的な対応、関係機関との連携
 - ・全職員が温度差なく、温かく、場合によっては毅然と指導 ・個別指導は、原則複数で対応
 - ・子供に考えさせる、子供に任せる生徒指導(学級会の充実を通して)
- 特別支援教育の推進と充実
- 運動や遊ぶ機会の保障、体力向上プランの取組

③G1-3 学校・家庭・地域の連携による教育の充実

コミュニティスクールの推進・・・社会性と地域愛の育成・学びの成果を発揮!

- ◎地域の一員としての自覚を高める地域の貴重な教育資源を生かした取組
- 家庭・地域との情報共有、連携・協働
- 地域人材の発掘と活用、長崎大学との連携
- 幼保小連携、小中高連携、地域諸団体との連携、専門機関・行政の活用

④G1-4 安全・安心に学べる教育環境の整備

子供の命と安全を守り抜く

◎組織の好循環こそが、最強の危機管理

- 危機管理マニュアルの読み合わせ(当事者意識を高める)
- 安全、清潔、整然とした環境づくり ○危機(不祥事を含む)の事前防止対策
- 「子供の危険」を絶対に見逃さない

「居るべき時に居るべき場所に居る教師」「空振り三振はよくても見逃し三振を絶対にしない」

外海黒崎小学校組織マネジメント

(5) 目指す教職員像

- 主体的に学び続け、高みを追求する教職員
 - ・ 背中で語る学習者：自らも学びを深しお姿を子供に見せることで、知的好奇心を喚起させる。
 - ・ 伴走型の指導：子供の可能性を信じ抜き、思考を深めるための「任せる・待つ・変える」アプローチを徹底する。
- 多様性を認め、心に寄り添う教職員
 - ・ 受容と共感の姿勢：高い人際意識とカウンセリングマインドを持ち、子供や保護者の思いを丁寧に汲み取る。
 - ・ 自己肯定感の育成：無償付け（褒める）を大切にし、子供が「ありのままの自分」を愛し、自信を持てる関わりを行う。
 - ・ 自治の機運：子供に役割と責任を委ねることで、自分たちの力で集団を育てる「自治の風土」を醸成する。
- 強みを生かし、協働して未来を創る教職員
 - ・ チームの相乗効果：個々の強みやアイデアを掛け合わせ、継続してより質の高い教育法を展開する。
 - ・ 対話を通じた成長：子供の成長を語り合う文化を大切にし、互いの専門性を高め合う。
 - ・ 迅速な連携：運動発表時には「チーム学校」として即座に手を取り合い、相乗力で解決にあたる。

保護者

地域
社会

外海黒崎
小学校

現状

学力向上
主体性の構築
考える力 等

手段

私にできること
皆とできること

子供も先生方自身もわくわくするような取組
(業績評価に入れてほしいこと)

ビジョン

目標

夢(目標)に向かって、
「じぶんからみんなと いっしょけんめい」
に取り組む児童の育成
～きらめけ!自分の色・みんなの光～

目的

人格の完成 【校訓】(地域の願い)
じぶんから みんなと いっしょけんめい

ミッション